

第2学年2組 国語科学習指導案

日時 令和元年

児童数

指導者

場所

1 題材名 手紙を書いて伝えよう

2 児童の実態と本題材の意図

(1) 児童の実態

(2) 題材について

本単元の重点指導事項は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の内容「B書くこと」(1)イ「自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」ウ「語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。」である。本単元では、児童が感謝の気持ちを伝えたい相手に手紙を書く活動を通して、自分の気持ちが伝わるように、簡単な構成を考え、語と語や文と文との続き方に注意して、つながりのある文や文章を書く力を身に付けることを主なねらいとしている。

(3) 指導について

上記実態調査の結果を受け、生活科の「まちたんけん」でお世話になった方にお礼の手紙を書くという題材を貫く言語活動を設定することで、相手意識を明確にした学習ができるようにする。そして、実際にお世話になった方にお礼の手紙を書く活動を行うことで、感謝の気持ちが相手に伝わるような文章構成で手紙を書く力を身に付けさせていく。この学習は生活科の該当単元の目標「自分と地域とのかかわりを広げることができるようにする」を補充・深化させることもねらいとしている。

また、同じ内容だが書かれている順序が違う2種類の手紙を読み比べることで、読み手に気持ちが伝わる手紙の構成(書く順序)を理解させる。

本時では、授業のはじめに単元を通しての課題を確認することで、学習の意味付けを確かめる。そして、前時までを振り返り手紙を書くよさについて考える。さらに実際に手紙の受け渡しを行って、手紙をもらうよさについてまとめることで、「まちたんけん」でお世話になった人に、よりよい手紙を書くためにはどうしたらよいか考えることができるようにする。また、生活の場面での活用を意識できるように、学級内に年賀状や暑中見舞いを掲示する。

3 研究主題との関わり

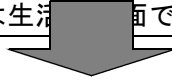
研究主題

「幅広い学習や生活の場面で活用できる力を育む」
～教科横断的な指導を通して～

仮説 1

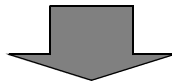
○生活の場면을想起させる授業の工夫

意図的に活用場面を設定すれば、児童は生活の場面でならったことを活用できるようになるだろう。



手立て 1

国語科で学習した「書くこと」に関することを生活の場面で活用できるよう、振り返りを工夫する。

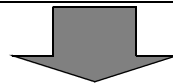


具体的な方法

- ①年賀状や暑中見舞いなど、日本の伝統的な文化について知ることで、手紙のよさについての考えを深めることができるようにする。
- ②手紙という自分の行為によって、友達を喜ばせることができるという経験をさせることを通して、学習意欲と活用への意欲の向上を図る。

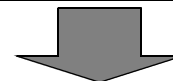
仮説 2

いろいろな教科が関わることで、(生活の場面で)活用する教科の幅が広がるであろう。



手立て 2

意図的に教科間の繋がりを見える化することで、他教科において学習したことを活用できるようにする。



具体的な方法

- ①生活科の「まちたんけん」と国語科の「手紙を書く」ことをつなげ、単元を通しての児童の目標に設定することで、国語科の学習を補充し、生活科「自分と地域との関わりを広げる」ことができるようにする。
- ②他教科との関わりを図で示し、児童が関わりを捉えられるようにする。

4 単元の目標

相手を決めて、伝えたいことを手紙に書く。【書くこと】

5 指導と評価の計画

時	学習内容	評価規準
1	○学習の進め方を理解し、見通しをもつ。手紙を書くことに興味をもつ。 ○生活科で「感謝の手紙」を書く学習活動について知る。	※手紙の内容に興味をもち、相手を決めて書く内容を考えようとしている。 【関心・意欲態度】
2	○手紙の構成を理解する。	※経験したことや想像したことなどを手紙に書いている。【書くこと】
3・4	○書く相手と書くことを決め、簡単な構成を考えながら手紙を書く。	※言葉には、経験したことを伝えるはたら

		きがあることに気づいている【言語】
5 (本時)	○手紙を読み合いがら、感想を伝え合う。	※手紙のもつよさについて考えることができている。【書くこと】
6	○もらった手紙に感想を書く。	※もらった手紙のよいところや感想をもとに、返事を書いている。【書くこと】
生活科	○まちたんけんでお世話になった人に手紙を書く。	※経験したことや想像したことなどを手紙に書いている。【書くこと】

6 本時の学習指導（5／6時）

(1) 目標 手紙を読み合って、感想を伝え合うことで、手紙のよさに気づくことができる。

(読むこと)

(2) 展開

学習活動	学習内容	○指導上の留意点 ☆教科横断 ★生活場面	※評価	時間
1 単元を通しての課題を確認する。	単元課題の確認			
まちたんけんでお世話になった人に、ありがとうの手紙を書こう				
2 本時の学習課題をつかむ。	学習課題の把握	☆生活科「どきどきわくわくまち探検」自分と地域との関わりを広げる		
手紙を読みあってかんじたことをつたえよう				
3 手紙を書いたときに感じたことを出し合ってまとめる。		○すべての児童が手紙をもらえるよう配慮する。		5
4 前時まで書いた手紙を友達と交換する。	手紙を送るよさ			10
5 手紙をもらってうれしかったことを、送り主に伝える。	手紙をもらうよさ	○どの言葉が特にうれしかったかを明らかにさせる。		20
6 手紙をもらってよかったことを出し合ってまとめる。		○どの言葉が相手に喜んでもらえたかを知ること、次回、自分が手紙を書く際に、その言葉を活用できるようにする。		35
手紙をおくるよさ				
<ul style="list-style-type: none"> ・書いた人のことを知ることができる。 ・とっておくことができる。 ・自分のことをほめてくれることがうれしい ・返事をもらえる 				
7 本時のまとめをする。		○他に誰に書くことができるかを提起することで、生活の場面との繋がりを考えることができるようにする。	○書いてくれるとうれしかった内容を付け加え、手紙の送り主に渡す。	40
※手紙のよさに気づくことができたか。				
【読むこと】（発言、ノート）				
8 ふりかえりをする。		★年賀状や暑中見舞いなどの日本の伝統的な手紙文化について、生活と結びつけた説話をする。		
9 次時の予告をする。				45

手紙を書いて伝えよう

生活科「かんしゃの手紙」

→ ←

この学習

→ ←

くらしの中「年賀状や暑中見舞い」

まちたんけんでお世話になった人に、
ありがとうの手紙を書こう

手紙を読みあってかんじたことをつたえよう
がくしゅうのながれ

- ①手紙を書くよさを たしかめる
- ②手紙をあいてにわたす
- ③どんなことがうれしかったか
考える・つたえる
- ④まとめる

手紙を書くよさ

(前時まで)

手紙をおくるよさ

(本時のまとめ)